

**(第13回)「福島県民健康管理調査」の結果について**

(2013年11月12日付「第13回福島県民健康管理調査検討委員会」資料より)

**1. 2011年度、2012年度、2013年度の子ども甲状腺検査の結果概要**

検査対象の子どもの数 約37万人

一次検査終了子ども数 約22.55万人(61%終了)

(以下、「〇〇年度対象」は、「〇〇年度対象市町村」の略)(人)

	2011年度対象	2012年度対象	2013年度対象
一次検査結果確定者①	41,339	136,936	47,262
B・C判定②	216	971	372
(②/①)	(0.5%)	(0.7%)	(0.8%)
二次検査結果確定者③	176	698	23
悪性(疑い含む)④	13	44	1
(④/③)	(7.4%)	(6.3%)	(4.4%)
うち確定	10	16	0
.....			
.....			
	総合計		
一次検査結果確定者①	255,537		
B・C判定②	1,559		
(②/①)	(0.6%)		
二次検査結果確定者③	897		
悪性(疑い含む)④	58		
(④/③)	(6.5%)		
うち確定	26		
.....			

**2. コメント****(1) 子ども甲状腺ガンが更に増加：恐ろしいことが引続き起きている？**

一次検査進捗率は61%、二次検査進捗率は57.5%

その前公表時の悪性は3人、疑いは7人 計10人 「疑い」はほぼ9割が悪性

前前回は 悪性は11人、疑いは16人 計27人 同 上

前回は 悪性は18人、疑いは25人 計43人 同 上

今回は 悪性は26人、疑いは32人 計58人 同 上

(子ども甲状腺ガンの増加が止まらない、検査が進めば更に増える可能性大)

(良性とされた子どもの場合も、それが甲状腺切除後に判明している)

一次検査結果確定者の約0.6%が二次検査を受け、そのうちの約6.5%が悪性  
 ここから、今後確認するであろう悪性の子ども甲状腺ガン(疑い含む)を推定すると

二次検査未了の子ども約 662 人  $\times 6.5\% = 43$  人

一次検査未了の子ども約 14.5 万人  $\times 0.6\% \times 6.5\% = 57$  人

今回までの確認 58 人との合計で、今後、全対象者の検査が終了するまでに、約 158 人の悪性甲状腺ガンの子どもの発見されると推定される

更に、時間の経過とともに発見数は増大し、その増大速度も加速の可能性あり

## (2) この数字は福島県の子ども達だけの数字である

福島県の大人、福島県以外の都道府県の大人・子供・妊婦（胎児）を入れると更に数字は大きくなっていく（推定で 158 人  $\times 5$  倍 = 790 人）

上記は甲状腺ガンだけの数字で、その他の甲状腺疾患や機能障害が無視されている何故、福島県以外の県民・都民に対しても甲状腺エコー検査をしないのか

何故、山下俊一が甲状腺学会を通じて全国の甲状腺医師に出した通知（甲状腺検査や診断の依頼があっても受け付けないようにとの主旨）を回収・撤回しないのか

## (3) 政府・福島県・「福島県民健康管理調査検討委員会」のマンネリ説明

まず最初に「放射線被曝とは関係がない」がアプリアリの大前提であるのはおかしいでは「何故、過去に比べて増えたのか」への彼らの答え

- ・比較するものがないから「多発」と言えるかどうかは分からない
- ・大規模な調査は今までなかった
- ・スクリーニングで早く見つかった
- ・スクリーニングの機器類の性能が良くなって発見数が増えた

（岡山大学の疫学の専門家・津田敏秀教授が上記の見解を誤りであると指摘：増えていることは認めるべきである ⇒ 問題は「何故増えてきているか」 ⇒ 予防原則）

## (4) 過去の数字と比べると

子ども甲状腺ガンは非常にまれな病気

10 歳以上だと、100 万人あたり 3～5 人／年程度

10 歳未満だと、100 万人あたりほぼゼロ（1 千万人に 1～2 人／年程度）

平均有病期間を極端に長い 10 年だとしても、今回の数字は非常に大きい（10 倍以上）

（参考）有病率 = 発生率  $\times$  平均有病期間

## (5) 非ガンリスクに注目し警戒せよ

放射線被曝、特に恒常的な低線量被曝（内部被曝 + 外部被曝）は、ガン・白血病や流産・死産だけでなく人間に遺伝的障害を含む様々な健康障害をもたらす可能性が高い

### <健康障害の事例：これがすべてではない>

極度の慢性疲労・倦怠感（いわゆる「ぶらぶら病」）、各種臓器不全、消化器系疾患、免疫力低下・ホルモン異常、病弱化・虚弱体質、循環器系疾患・心臓病と突然死、神経系疾患、呼吸器疾患・ぜんそく、糖尿病、白内障、脳障害・知能低下、膀胱炎、生殖異常・遺伝病・奇形児、短寿命化他

### 3. 提言：なすべきこと

#### (1) 「福島県民健康管理調査」の抜本改革

汚染地域のある福島県以外の都県でも実施すべき

子どもだけを対象にするのではなく全年齢層で実施すべき

検査すべきは甲状腺ガンだけではない

(甲状腺エコー, 尿検査, 血液検査 (染色体異常・エピジェネ異常他), 心電図,

WBC検査, バイオアッセイ (検便・脱歯・髪の毛他: スロリナム,  $\alpha$ 核種) 他)

全国で, ワンストップで, 上記の全部の検査を同時にやる体制づくり

各検査の内容充実 (甲状腺検査はスクリーニングではなく, いきなり本検査でいい)

検査頻度を増やす (受検者の状況に応じて3~12か月に1度)

検査結果の本人還元の徹底 (自分の検査結果をもらうのに, 何故, めんどうな「情

報公開請求」の手続きをとらねばならないのか),

検査結果やカルテを含む全記録類の永久保存

セカンド・オピニオンの利用充実とその活用

健康保険対象+補助金で受験者は無料化  $\Rightarrow$  東京電力負担

各検査について比較可能とするための西日本や北海道での疫学的大調査の実施

体制の抜本改革 (政府が前面に出よ, 「福島県民健康管理調査検討委員会」のメンバ

ーの更なる刷新, 医療関係者・団体の救国的一致団結, 財政サポート他)

#### (2) 放射線被曝の未然予防

まず避難, 除染するにしても, まず一時避難

放射線管理区域指定基準 (5.2mSv/年以上) は全員避難

1mSv~5.2mSvは「避難の権利」

子どもは集団疎開, 大人も子供も「コミュニティごとの移転」

汚染地域に残る人にも「無用の被曝回避」のガイダンス徹底

飲食品の検査体制の抜本改善と, 規制値の更なる厳格化, 放射性セシウム以外核種検査

政府が前面に出よ: 被害者への万全の賠償・補償・再建支援, 「原子力事故による子

ども・被災者支援法」他

自然環境モニタリングの拡充 (野生生物の変化をつかまえよ)

#### (3) 賠償・補償・再建支援: 5原則+ $\alpha$ (同時代に生きる人間としての使命・倫理)

賠償・補償・再建支援が全く不十分で出鱈目=21世紀最大の人権侵害事件

原発事故被害者の賠償・補償請求権を民法上時効(3年)の除外とせよ(特別立法)

賠償・補償・再建支援がきちんとならないと被害者はいつまでも救われない

① 全ての被害者の全ての被害・損害が何の留保条件を付けられることなく全額賠償

または原状復帰されること (逸失利益含む)

② 全ての被害者の生活及び経営が再建されること (費用, 段取り, その他の負担の

すべてを加害者が負うこと)

③ 上記(2)再建が確認できるまでの間, 全ての被害者の生活及び経営を補償すること

④ 2011年3月11日以降, 上記の賠償・補償・再建費用が実払いされるまでの間,

電気料金遅延にかかる「遅延損害金」と同利率の「遅延損害金」が被害者に支払われること

- ⑤ 悪質な交通事故被害の場合以上の慰謝料（迷惑料）が被害者に支払われること
- ⑥ (+α) 被害者の被害は「お金」に変えられないものも多い。その部分を加害者・事故責任者が万全にフォローすること

#### 4. 390 件で集計ミス＝原発事故に伴う甲状腺検査―福島県(時事通信)

<http://www.jiji.com/jc/zc?k=201311/2013110801046>

\*福島県県民健康管理調査委員会は 11 月 8 日付けで、第 8 回から 12 回までの 5 回分の資料に誤集計があったとして訂正をしています。

[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=24809](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=24809)

子ども達の内部被曝を心配する被害者住民の親御さん達の気持ちを踏みにじるかの如く、検査されたデータが「適当」に扱われ、集計もずさんなまま放置されて、結果的に大きなミスが表面化しました。この「福島県民健康管理調査」に関連した誤りは、今回のものだけにはとどまらない可能性があります。

記事には「集計の基となる医師作成の書類には「A1」か「A2」かの区別を記載する欄がなく、医師が欄外に書き込んでいたが・・・」とあります。検査記録の様式さえもがいい加減でノーチェックだったということです。「福島県民健康管理調査検討委員会」の委員達は、いったい何を見ているのでしょうか？ また、検査をした医者達は、こんな記録シートはおかしいのでは、と何故言わないのでしょうか？

「すみませんでした」では「すみません」でしょう。ことは子ども達の大切な命と健康に関わることなのです。少なくとも、再発防止のためには、次のような厳しい措置が必要かと思われまます。

- (1) 実務を担当している福島県立医大の責任者の処分、
- (2) 「福島県民健康管理調査」の実務遂行を福島県立医大から切り離す
- (3) 「福島県民健康管理調査検討委員会」委員全員の辞任、または罷免と、その責任の追及（訴訟ありうる）
- (4) 放射線被曝に対して慎重な科学者・医学者・医師を過半数入れた新委員会を創設し、「福島県民健康管理調査」の在り方を、「予防原則」「慎重原則」に沿って抜本的に見直す、

(参考1) 福島県検査で甲状腺がん 58 人～最年少は 8 歳 OurPlanet-TV: 特定非営利活動法人 アワープラネット・ティービー

<http://www.ourplanet-tv.org/?q=node/1674>

(参考2) 福島県ホームページ - 組織別 - 県民健康管理調査検討委員会

[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=24809](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=24809)

以 上